

平成18年度 佐賀県立佐賀西高等学校 学校評価表

1 学校教育目標
創立以来130年にわたる歴史を有する本校の校是である「質実剛健」、「鍛身養志」のもと生徒一人一人が教職員並びに生徒相互間に敬愛と信頼を中心とした好ましい人間関係を築き、「熱き心(若々しい情熱)」・「寛き心(思いやりの心)」・「毅き心(チャレンジ精神)」を醸成し、高い知性と広い視野を持ち、社会に貢献できる心身共に健全な人間の育成を目指す。

2 学校経営ビジョン
県下第一の伝統と実績を誇る進学校として、生徒・保護者・県民の期待に応え得る学校づくりを目指す。学業面では全国レベルを視野におき、部活動でも県下の上位を目指す。学業と部活動の双方に優れた学校づくりを目指す。 本校生の共通基盤としての品位と品格を涵養できる豊かな育成環境を持った学校づくりを目指す。

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
6万余の卒業生によって築かれた歴史と伝統を継承し「学力向上」を第一義とし、「事上磨練」の気概で「すべてに燃え、より高きに挑戦」する佐賀西高等学校生を育成するため、特に次の三点に力を入れる。 ・学力向上と高いレベルの進路保障 ・あいさつの励行 ・部活終了7時、下校完了7時半の完全遵守	進路保障については、3年連続して高いレベルの進学実績を達成することができた。これは、教科指導、進路指導、生徒指導を柱とした指導体制を強化した効果の現れと考えられる。 現在、このレベルの実績に満足することなく、さらに高いレベルの目標を設定して、それを実現するための指導システムを構築することを目指している。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・本年度の重点目標を周知させることができたか。 ・本年度の重点目標への取組みを生徒・保護者が高く評価したか。	・重点目標を知っている保護者の割合を70%以上にする。 ・重点目標の取組について、学校は「よくやっている」、「頑張っている」と思う生徒・保護者の割合を80%以上とする。	・重点目標を後援会総会、学校だより、保護者会、本校HPを通して同じ文言で繰り返し発信し、周知を図る。 ・目標達成のためにどういう取組をしているかについての情報を積極的に発信する。	A	・HPの一新、保護者会でのパワーポイントによる学校説明等によって、学校経営方針をわかりやすく伝えることができた。 ・保護者の評価は3.8(5段階評価)の評価を受けたが、さらに高い評価を受けよう努力したい。
	広報活動	・保護者への情報提供は十分にできたか。 ・中学校への情報提供は、十分にできたか	・学校の諸活動・諸行事についての情報を保護者に提供し、周知を図る。学校開放週間の来訪者数を50人以上にする。 ・遠隔地を含めて、意欲ある志願者を掘り起こす。	・学校便り「西高だより」の掲載写真を増やすなどして内容を工夫し、より魅力あるものにする。事前PRを従来より強化する。 ・各中学校についての情報を収集するとともに、パワーポイントを活用したわかりやすい説明をする。	A	・「西高だより」を二ヶ月に一回の割合で発行し、行事や教育の成果を中心として保護者への情報提供を行うことができた。 ・HPや学校案内パンフレットを一新し中身を充実したことで、学校の教育活動がわかりやすくなったと評判であった。また、パワーポイントでの学校説明も好評であった。
	学校事務	・経費の節約はできたか。 ・校内設備の維持・管理はできたか。	・光熱水費を前年比5%減とする。 ・校内設備等の不備を早期に発見し、また修理する。	・全校生徒に節水・節電を呼びかける。教室やトイレの不在時の消灯の意識を高める。 ・校内巡視を定期的に行い、結果を記録して関係者に状況を周知させる。	B	・光熱水費節減目的は、ほぼ達成できたが、生徒の節減意識はまだ十分ではなかった。 ・職員、生徒の高熱水費とゴミを含めての節減意識を高める取組みを継続する。

	職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大の入試傾向やレベルに精通し、授業に活かすことができたか。 ・密度の高い授業ができたか。 ・教科指導において、三年間の見通しを持つことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次対策指導、特に難関大学への教科指導ができるところまで全職員の指導力を高める。 ・授業に対する生徒の満足度を掌握し、満足度の数値の向上を目指す。 ・本校での教科指導のためのノウハウを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学の入試問題を徹底的に研究して、研究レポートとしてまとめる。 ・職員相互の授業参観により、授業の質を向上させる。 ・授業満足度調査を実施し、その結果をもとに授業の改善・工夫をする。 ・教師用シラバスを作成し、教科研修会を開いて共通理解を深める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入試研究レポートの充実等一定の成果は得られている。今後は、その成果を授業にどう活かすかが課題である。 ・職員相互の授業参観の推進を通して、指導力は確実に向上している。生徒の授業満足度は、90%が満足しているという結果となった。 ・教育課程の変更に伴い、新たに教師用シラバスを作り替えていく必要がある。
	職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文研究を柱にした進路指導の趣旨が十分に理解できたか。 ・難関大学に関する基本情報を共有できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文研究の趣旨を生徒に十分に理解させることができたか。 ・難関大学受験者を増やす。各学年とも東大30人、九大160人を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文研究指導についての校内研修を実施する。 ・難関大学研修会を開く。 ・面談等を通して難関大への挑戦意欲を育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校における小論文研究の意義等に対する理解は深まっており、難関大学に関する情報も共有できた。また、難関大志願者は確実に増えている。
教育活動	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・六高連における学力の位置 ・全国模試における偏差値・上位者度数 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科偏差値および上位層の比較において、六高連の3位以内を目指す。 ・3年生の10月段階で、一応の学力完成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科のシラバスを充実せ、3年間を見据えた学習指導を進める。 ・2年次より進路に即応したクラス編成を行い、志望校に直結した長期計画に基づいた指導をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・六高連の中では、期待通りの学力の位置が確保できなかった。六高連の学校にみられるように、難関大進学への意識の高い生徒が県外へ流出しない努力が必要である。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・質の高い大学合格者数 ・将来のなりたい自分や生き方を見いだすことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現役合格者数で東大5、九大40をはじめ、国公立大学200名を目指す。 ・なりたい職業、行きたい学部学科を見いだした生徒が90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象に大学別学習説明会を実施する。また進路検討会・学力検討会を充実させる。 ・職業研究、職業人による講話、学部学科研究、オープンキャンパスの実施。 ・小論文研究の充実。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学への志望者は増加したが、現役の合格者は目標を達成できなかった。 ・職業人による講話やオープンキャンパス等が活かされ、将来の目標を見出す生徒が増加し、1,2年生でも80%以上となった。
	家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間を十分に確保できたか。 ・効率のよい家庭学習ができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・4回の家庭学習時間調査での家庭学習時間を各回とも3時間以上とする。(前年同期比プラス30分) ・予習に力を入れた家庭学習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間調査を年4回実施、その都度、生徒面談で指導する。また、下校時間を遵守する指導を担当・部活参与で徹底し、家庭学習時間の確保に努める。 ・志望大学集会で教科学習について、先の展望を与え、主体性や意欲を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回の「日々の記録週間」の実施により、家庭学習時間をデータとして捉え、指導の一助として効果を上げた。課題としては、データの信頼性をあげるために実施期間を適切な時期に配置する必要がある。
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な社会性を身につけさせることができたか。 ・交通安全意識を高めることができたか。 ・生命尊重の意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を全校生徒が行う。 ・雨天時における自転車の傘さし運転、また並進、無灯火運転をなくす。 ・自他の生命を尊重し、生き生きとした学校生活を送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が率先して挨拶の大切さを朝礼、部活動で指導する。 ・登下校指導を行い、徹底して雨合羽着用、並進・無灯火をなくす指導を行う。 ・講演会や全校朝礼などの機会に、命の大切さについての講話を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年と連携して、登校指導や駐輪指導をおこなったので、生徒の身だしなみや交通安全への意識が高まった。また、自転車盗難防止モデル校としてその取り組みが警察から表彰された。

	環境美化	<ul style="list-style-type: none"> ・教室が学習環境としてふさわしく整美されているか。 ・環境に関する意識は高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教室を、常時整理整頓がなされ、かつ清掃の行き届いた状態にする。 ・ゴミの量を軽量化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の清掃にきちんと取り組むと共に、学期に1回教室掃除徹底週間を設ける。 ・具体的な点検項目を設け保健委員で点検する。 ・ゴミを出さない、または、ゴミ袋を持参させ持ち帰りの指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の清掃強化週間は、学習環境を整える良い機会となった。 ・ゴミの軽量化については、文化祭でもテーマとして取り上げ生徒の意識は高まったが、数値としてあげるほどの効果はなかった。
	読書指導	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の量と質の両面における向上が見られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人あたりの年間平均貸出冊数を、前年度より0.5冊増加させ2.5冊とする。 ・読書感想文コンクールにおいて計7名以上の入賞者を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、「図書館便り」を発行し、良書の紹介と新着図書情報を充実させる。また、朝の10分間読書を、より定着させることで図書館の利用を促進する。 ・小論文研究、国語の授業とも連携してコンクールに対する参加意欲を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館便り」の発行は10号を数え目標を達成できたが、生徒一人あたりの平均貸出冊数、および読書感想文コンクールにおける入賞者数については目標を達成することができなかった。生徒の足が図書館に向くような仕掛けの工夫や意欲的に感想文に取り組ませる方策を考える必要がある。
	保健指導	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康生活の支援ができたか。 ・保健室来室者が学習に復帰できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康実態の把握をすると共に、病気の予防、食育についての情報を提供する。 ・来室者数を減らすと共に、早期に復帰できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検診結果をもとに、改善を要する生徒への指導を充実させる。また、「保健だより」を毎月発行する。 ・来室者に自分の体の点検と快復への手だてを考えさせ、実践させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・受診の勧めは、繰り返し行った。また、「保健だより」をとおして、各時期に応じた情報を伝えることができた。 ・湯たんぼの活用によって、教室へもどることができる生徒が増えた。
	生徒用シラバスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的かつ実践的なシラバスを作成することができたか。 ・生徒が活用し自己の学習に役立てることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の節目節目での模試成績が上位者数1割増・平均偏差値1アップ。 ・生徒がシラバスを活用することによって、計画的な予習ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに作成したシラバスの問題点を検討し、より成果があがるものに一新し、授業で実践する。 ・教師が、授業の中でシラバスの活用の仕方を指導すると共に、シラバスに基づく授業を展開する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒に配布するとともに、担任と教科担当者との打合せ会を行い、教科の取り組みを共有することができた。 ・未履修問題をふまえ、学習指導要領に則し、かつ生徒の実態に即した的確な指導計画を作成する必要がある。
特定課題	授業でのIT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・授業でのパソコン活用はできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員がパソコンを効果的に活用した授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンのパワーポイントや画像・ビデオの編集の仕方などの講習会を実施して技術を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員がパソコンの活用はできるが、より効果的な授業の実戦が今後の課題である。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態にあった学習支援を行い、教室での授業や登校を促すことができたか。 ・本人、保護者、担任等との連携がうまくとれて、実状に合った指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に対して、各教科の履修と修得が認定できるレベルまで指導する。 ・指導記録の充実と生徒の意欲を高める。 ・該当生徒の登校状況が、家庭から保健室等へ、保健室等から教室へと段階的に前進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書自学等の課題や、その確認のテスト等可能な方法で、長期にわたる指導を計画的に実施する。 ・生徒の意欲を喚起し、登校と教室での授業に参加させるように促す。 ・スクールアドバイザーとも連絡を取って、個々の生徒とのコミュニケーションを深めつつ意欲を喚起し、少しずつ進歩させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談、スクールアドバイザー、保健室との連携で不登校傾向の生徒に対応できた。保健室等にも来ない不登校傾向の生徒への対応を今後検討する必要がある。

6 総合評価

現在、本校の学習状況、生活状況は非常に良い状態にあり、落ち着いて学業、部活動に集中できる環境にある。その結果、大学進学状況はこの4年間安定した成績をあげており、特に本年度は本校が目指す高い目標意識をもった生徒が各学年多く、実際に難関大学への出願も増加した。東大現役合格は2名にとどまったが、京大現役合格5名などその成果が表れている。また、部活動においても、高校総体総合成績県三位や野球部夏の大会準優勝など文武両道が実戦された1年であったと評価できる。さらに、本年度は、ホームページリニューアルやパワーポイントによる学校説明等の手段で、積極的に本校の教育活動を多方面に広報していくことにも力を入れた。その結果、19年度の入学生の成績をみると、大いに効果があったと評価できる。

本校は、教育活動や重点目標の達成を通して、生徒を心身共に健全に育成すると共に、最終的には生徒が「来て良かった学校」、保護者が「預けて良かった学校」と思う学校でありたいと考えている。生徒、保護者のアンケート結果は、生徒3.7、保護者4.1となっており、一応の成果は達成できたもの評価している。

7 次年度への課題・改善策

(1) 本校は、第一の重点目標である学力向上と、それに伴う進路保障に最大のエネルギーをかけている。このエネルギーが無駄なく効率よく活用されているかどうかには留意し、検証していく必要がある。

そのため次のような方向性をもって今後さらに創意工夫を重ねていく方針である。

2年次からの志望校別クラス編成を最大限に生かすため、学年指導、担任指導、教科指導のあり方をそれぞれ再点検し、より効果を高めるためにはどうしたらよいか、生徒の意欲をより高めるためにはどうしたらよいかという観点から一層の共通理解を図って行く。また、本校の進学実績や取り組みを幅広く広報して、目的意識の高い生徒の入学にも力を入れていきたいと考える。さらに、次年度は佐賀総体が実施され、学習面においてその影響が懸念されるが、本校が行っている自学学習力をつける指導を通して、その影響を最小限にとどめることにも力を入れていく。

(2) 本校生は、将来いろいろな分野でリーダーとして活躍することが期待される。そういう人材を育成するために勉強だけに偏らない幅広くまた骨太の人格形成を目指している。そのための方策として部活動の奨励はもちろんのこと、生活指導、読書指導、保健指導、環境美化指導等、以下の点にも力を入れていく。

- ・自他の生命尊重教育も視野に入れ、交通マナーの向上指導を含め、保護者との協力態勢を構築していくことを目指す。
- ・朝10分読書の奨励、さらに、本の質・内容について指導を加えて充実を目指す。
- ・食育の面からの指導も図り、日常の体調管理、規則的生活習慣の定着、部活動の休養日設定なども考慮し、遅刻・欠席の数を減らす。
- ・生徒の環境美化に対する意識を高めながら、ゴミを出さないまたゴミを持ち帰る指導、節水節電の指導なども検討して、校内の隅々の美化と環境教育の徹底を目指す。
- ・佐賀総体への職員と生徒の協力、さらには、空手競技のサポート校として成功を目指す。
- ・各種行事の精査と精選を行い、授業時間の確保に努める。